

H24.10.6

長い待ち時間



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorbog/nagao/>)が好評。

Dr.

和の町医者口語

「医者の本音」シリーズ④

上は診られませんよ」と制限しているのです。

日本は国民皆保険制度の上に、フリー・アクセスです。さらに応召義務が加わります。

患者さんは、医者を自由に選べるので「ドクターショッピング」を繰り返す方もいます。

「なぜでしょうか? 今回のはその理由を考えてみましょう。

病院に行くとなると、待ち時間が気になります。大きな病院では、予約があつても2

～3時間待つことがあります。それを見越して読みたい書籍を持っていく患者さんがおられます。が、賢明な判断です。

昔から大きな病院は、よく「3時間待ちの3分診療」といわれます。これだけいわれ続けているのに改善できない

3時間待ちの3分診療の理由

はそういうわけではありません。一人ひとり、来た人全員を丁寧に診なくてはなりません。

1人5分で診ても1時間に

12人、午前中に36人しか診ることができません。1人5分といつても、呼び入れる時間や着替える時間を差し引くと正味3分です。3分の中で、診察、説明、カルテ記載を終えなくては時間通りに進行しません。もちろん現実には、そのように進行せず、遅滞す

ります。昼食もとらず、夕

る一方です。

初診なら問診だけで15分はかかりますし、話の長い患者さんは15分しゃべり続けます。「2時間も待たされた」と開口一番、文句を10分間しゃべり続けると、それだけが長くなる町医者がいます。

すでに、2人分の遅れが発生します。

ですから、午前中に約30人

実は開業医も同じです。半日に30人診るとして、時間通りに進行してほとんど待たせない町医者と、じっくり診察するのでどうしても待ち時間がかかることがあります。町医者が、どちらのタイプか知つておいた方が大切です。話をよく聴いてくれることは、必然なのです。

最近、待ち時間に外出でき

ます。診察しようとしたら、丁寧に診察すればどうしても終了時間が、1～2時間は遅れてし

ますのです。

昔、勤務医だったとき、診察が早い医者がいました。ものすごいスピードで診察します。その代わり患者さんの話ははずですが、まだ少数派です。患者さん側の自衛策としてはほとんど聞いていません。

一方、患者さんの話を丁寧に聽く医者もいました。待ち時間は、おのずと3時間超えになります。昼食もとらず、夕



応召義務

医師法19条には「診療に従事する

医師は、診察治療の求めがあった場合には、正当な事由がなければこれを拒んではならない」と定められている。しかし、医師が病気や体調不良の時は適応されない。